

耳が聞こえない人も楽しめる
映像メディアと一緒に考えませんか！

ろう者の生活と文化、手話は
映画でどのように描かれて来たのでしょうか。

講
義
編



情報アクセシビリティ・フォーラム 映像エリア 東京・秋葉原 UDXシアター (秋葉原UDX 4階)



『マダムと女房』監督/五所平之助(1931年)松竹

11月22日(金) 16:00～18:00
「映像メディアを考える～無声映画から発声映画へ～」
講師: 大杉 豊(筑波技術大学准教授)

無声映画をろう者はどのように楽しんでいたのでしょうか。そして、発声映画の普及はろう者の社会にどのような影響を与えたのでしょうか。ろう者が考える無声映画とはどのようなものなのでしょうか。最近ろう者が作った無声短編映画作品も紹介する中で、ろう者と映像メディアの関わりを解説します。

11月23日(土) 10:00～12:00, 11月24日(日) 10:00～12:00
「無声アニメーションの新しい風」
講師: Braam Jordaan ブラーム・ジャダーン

南アフリカ在住のろう者アニメーターが音声に頼らないアニメーション作品を次々と発表しています。ジャダーンのアニメではライオンやウサギが手話でやさしく語りかけてきます。“The Rubbish Monster” (右写真)は数々の賞を獲得しました。他数編を一挙上映して、無声アニメーションの魅力を語ります。



“The Rubbish Monster” 2006年

11月23日(土) 13:00～15:00
「映像メディアを考える～ろう者が見やすい字幕とは～」
講師: 重田千輝(筑波大学大学院)

洋画は大抵の場合、日本語の字幕がつきますが、翻訳されただけであって、聴覚障害者向けに作られているものではありません。そして日本映画は最近になって日本語字幕のついた作品が増えてきました。聴覚障害者が本当に見やすい字幕はどんなものなのでしょう。知りたい情報はどんなものなのでしょう。日本語字幕のついた映画作品をいくつか紹介し、実際に上映して字幕の色、位置、スピード、情報内容などを検証します。〈ゲスト〉 山上徹二郎氏(株式会社シグロ代表取締役/プロデューサー・NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター理事長)



講師 大杉 豊 (ろう者)

11月24日(日) 13:00～15:00
「映画に見るろう者の生活文化と社会観」
講師: 大杉 豊(筑波技術大学准教授)

ハリウッド映画では「ジョニー・ベリンダ(1948年)」がジェーン・ワイマン扮する耳の聞こえない娘の波瀾万丈の人生を描いて、大きな反響を呼びました。この作品に刺激を受けた松山善三監督が「名もなく貧しく美しく(1961年)」を監督し、この公開は手話ブームを社会に巻き起こしました。これら商業映画の中でろう者の生活や文化はどのように描かれて来たのでしょうか。「ろう者学」の視点で、映画に見る社会観を解説します。

座席指定券(1,000円)のお申し込みは

■ウェブサイト <http://www.ifd.or.jp/iaf/eizo-area>

■一般財団法人全日本ろうあ連盟

TEL 03(3268)8847 FAX 03(3267)3445